DIME 14号 掲載

【売れ味、好き味etc. データでわかるヒットのヒミツ】

味の科学ノート

第10回■緑茶飲料

自分の好きな食べ物・飲み物の「味」を言葉で表現するのは非常に難しいもの。では、それが数値化できるとしたら……。この連載では、「味覚センサー」※などを使って様々な商品を科学的に分析。気になるあの「味」を視覚化します！

すっきり？ それとも香ばしさ？ 夏のペットボトル入り緑茶飲料、その傾向は？

夏の日差しが日に日に厳しくなる中、冷たいペットボトル入り緑茶は水分補給と気分転換に欠かせない定番品だ。そこで今回は、新製品を中心に、この夏、コンビニなどの棚に並ぶ夏向け緑茶飲料の味わいを探る。

まず通年販売の商品（レギュラー品）、濃い味系の商品、夏向け商品について、味の深みを表わす渋味と香ばし感（につながる苦味）の2つの軸で商品を分析した。

今回唯一の濃い味系商品である『いぶき 深み仕立て』は、レギュラー品のゾーンに対して、香ばし感が弱く、渋味が強い。

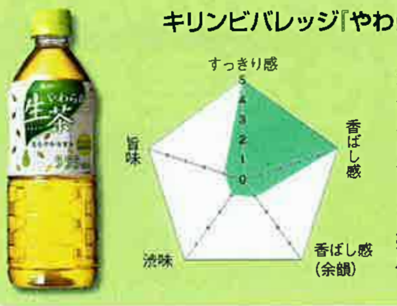
一方、『お～いお茶 涼やか』『やわらか生茶』のように、夏向けに「すっきり感」「ゴクゴク飲める」をうたう商品は、レギュラー品と比較すると渋味をやや抑えてあることがわかる。人間の舌では、渋味は温度が下がるほど強く感じられるため、特に冷たく飲むケースが多い夏場は、渋味を抑えた味が好まれるからだろう。

ところで「ゴクゴク飲める」コンセプトのために、ただ渋味を抑えると、すっきりと薄く感じてしまうことがある。それを防ぐため、各メーカーは独自の原料や製法により、香ばし感などを高めてすっきりした中にも飲みごたえがある味わいに作り上げているといえる。

また、渋味が少ないと旨味・甘味が感じやすくなるのも特徴だ。

夏はミネラルウオーターやスポーツドリンクなど止渇性飲料との競合も激しいが、ペットボトル入り緑茶飲料もまた、喉の渇きを癒すドリンクとしての地位が確立できているようだ。近くのコンビニや自販機で好みの一本を探して、夏の暑さを吹き飛ばそう！

キリンビバレッジ『やわらか生茶 555mℓ』



カフェインをレギュラー品の50％オフにした商品。低温抽出によるすっきり感＝飲みやすさと、香ばし感による飲みごたえを両立している。7月14日発売予定。メーカー希望小売価格147円。

アサヒ飲料『香る緑茶 いぶき 深み仕立て 490mℓ』

渋味が強い希少品種のべにふうきを使用した商品。原料茶葉からの旨味や渋味由来の深くて濃い味わい、さらには玄米からの香ばし感の余韻が際立っている。メーカー希望小売価格147円。

日本コカ・コーラ『綾鷹 涼玉 500mℓ』

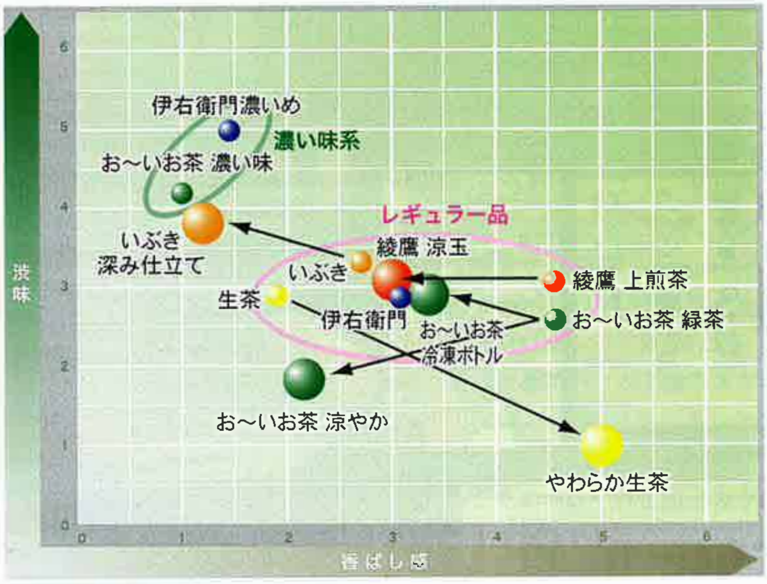
煎茶・抹茶に、水出しした高級な玉露を加えたプレミアムな商品設計。旨味、渋味、すっきり感など、味わいのバランスがとれているのが特徴。7月20日発売予定。メーカー希望小売価格150円。

伊藤園『お～いお茶 涼やか 500mℓ』

天然水を使用したトップブランドの夏向け商品。渋味を抑えたライトな味わいとすっきりした喉ごし、程よい旨味・香ばし感の余韻のバランスがとれている。メーカー希望小売価格147円。

伊藤園『お～いお茶 冷凍ボトル 485mℓ』

冷凍時の変形に対応するボトルを採用した商品。コンビニ・スーパーなどの冷凍コーナーで販売され、行楽などアウトドア需要を狙う。味は香ばし感が特徴。メーカー希望小売価格158円。



2次元グラフとレーダーチャートの数値は基準サンプル（0）と分析サンプルの味の強弱を数値化し、最大値と最小値を求めて5段階に標準化したデータで表示。香ばし感は苦味の先味を、香ばし感（余韻）は苦味の後味を、渋味は余韻としての渋味の後味を、旨味は余韻としての旨味の後味を、すっきり感は渋味の先味の少なさを使用しています。

取材・文／高野和志　イラスト／伊藤よりのり　分析協力／味香り戦略研究所 www.mikaku.jp/　本誌担当／宮澤明洋

※九州大学大学院 都甲・林研究室によって、研究・開発が進められ、インテリジェントセンサーテクノロジー社によって商品化された装置。甘味、塩味、旨味、酸味、苦味、渋味などを測定する。
おいしさとは、測定された味覚だけでなく、食感や食事をする際の環境、心身の健康状態など様々な構成要素からなりたっています。したがってここでの分析は製品の優劣を表わすものではありません。